

国語解答

1	
小計	2 点 × / 16 ()
(5)	(1)
編 む	す る
5	1
(6)	(2)
絶 える	そな える
6	2
(7)	(3)
保護	きんむ
7	3
(8)	(4)
専念	ぜんこう
8	4

2	
小計 	2点 × ()
(2)	(1)
①	①
回想	治
	める
12 9	
②	②
改装	収
	める
13 10	
③	③
回送	納
	める
14 11	
(1) (2) 漢字以外不可	

3

小計	2点 × ()
14	()
(5)	(1)

ち	さ
り	る

19 15

(6)	(2)
-----	-----

ぬ	つ
か	え

20 16

(7)	(3)
-----	-----

や	は
ぶ	ち

21 17

(1) (7) ひらがな以外不可

(4)

ね
こ

18

4							
小計	4点 ×						
／ ₂₈	()						
(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	
エ	人	ア	愛	イ	ウ	① 草	
28	へ	26	し	エ	23	む	
	の		て	24		ら	
	愛		い	(3) 順不同・完答		② 河	
	ゝ		る	25			
	あ		(4) 書きぬき			③ 飛	
	た					沫	
(6) 書きぬき	か					④ 廻	
	さ					転	
27						(1) 書きぬき。完答	

では、暑い環境で冷房を使ったり、寒い
たりすること。」
では、暑い場所を冷房で寒くして、寒い
くすること。」
る・寒いところで暖房を使う・寒いところ
がないものは－2点。「寒いところ」は「寒

29

5												
小計	4点 × 減点 / 24 () - []				小計	2点 × / 6 ()						
(5)		(4)	(3)	(2)			(1)					
②	①	ウ		エ		②	①	③	②	①		
こ	ウ	35		34		は	は	ア	化	ア	イ	カ
れ	36					冷	暖	メ	石	31 30 29		
ま						房	房	リ	燃			
で						に	に	カ	料			
の						よ	よ	型	な			
進						っ	っ	社	ど			
歩						て	て	会	32			
を						涼	暑	で	(2) ① 書きぬき			
支						し	く	は				
え						く	、	、				
(5) ② 書きぬき						す	暑	寒				
37						る	い	い				
						こ	と	と				
						と	こ	こ				
						。ろ	ろ	ろ				
33												

(2)② (別例) 「アメリカ型社 環境で暖房を使 (別例) 「アメリカ型社 場所を暖房で温

・「寒いところを暖房で暑くろを暖房する」にあたる内い環境・寒いとき・寒さ」で暖める」でも可。

・「暑いところを冷房で涼しころを冷房する」にあたるは「暑い環境・暑いとき・冷ます・冷やす」でも可。

解説

1 漢字の読み書き

2 同訓異義語・同音異義語

(1) 「治める」「収める」「納める」のほか、「修める」という同訓異義語もあります。意味のちがいを覚えて、使い分けができるようにしておきましょう。

(2) 「回想」「改装」「回送」のほか、「階層」「海草」などの同音異義語もあります。

3 ことわざ

(1) 名人でも失敗することがある、という意味が共通しています。

(2) 失敗しないように十分に準備をする、という意味が共通しています。

(3) 悪い事が重なって起こる、という意味が共通しています。

(4) 貴重なものをあたえてもその価値がわからないものには何の役にも立たない、という意味が共通しています。

(5) 小さなことでも積もり積もれば大きなことになる、という意味が共通しています。

(6) 手ごたえがない、という意味が共通しています。

(7) とつぜん思いがけないことが起きる、という意味が共通しています。

4 詩と鑑賞文(高田敏子「詩の世界」(詩は、伊藤桂「水ぐるま」より)

(2) ⑩行目「薄」、⑪行目「穂」から、水ぐるまがある河の周囲には、穂を出した薄が生えていることがわかり、秋の草むらの情景をえがいた場面だとわかります。

(3) 水ぐるまが「歌をうたっている」と人に見立てられています。また、連の終わりが「水ぐるま」という体言になっています。

(5) 「あなたの河／あなたの薄／あなたの穂」というたたみかけるような歌の調子や、このあとの「ひねもす まわれ」という強い命令口調と合わせて、「私」の心の動きをとらえましょう。

(6) 鑑賞文中の「『あなた』というひとりの人に捧げる愛の歌」「人生への愛の歌」「自分の日々を水車にたとえた美しい詩」にあてはまらないものを選びましょう。

5 説明的文章(鈴木孝夫「しあわせ節電」より)

(1) ①は、産業革命以降の急速な人口増加が述べられている前の部分に、空らんのとで、今日の人口増加が付け加えられていることから考えます。②は、二十億ぐらいが地球にはふさわしい人口だと述べられている前の部分とは逆の内容になる、四、五十年後には人口が百億に達するということが空らんのあとで述べられていることから考えます。③は、人口は簡単に減らないという前の部分から順当に導かれる内容として、空らんのあとで、まずは経済活動をサイズダウンして時間かせぎをはかることが述べられていることから考えます。

(2) 第一・第二段落では、アメリカ型社会で石油などの化石燃料を消費して冷暖房を行うことが、自然をねじ曲げることの例として挙げられています。

(4) ウは、人間が物質的欲望を抑えることで経済活動のサイズや社会の変化の速度を小さくするべきだという筆者の主張とは対照的な、環境をかえりみずに効率優先でエネルギーを消費してきたこれまでの人間社会の在り方です。

(5) ① 本文中の「狩猟採集から農業に移ったとたん、人間はほかの何千万の種類の動物の中で別格になりました」の部分から、Ⅲのまとまりの見出しを考えることができます。

② IVのまとまりの始まりでは、「我々は何をすべきなのか」という問いかけに答える形で、「社会の変化の速度を少し遅くしてみる必要がある」と筆者が主張を述べています。